

五大堂と雄島 秘密伝える

こども記者が新聞作成

宮城県松島町の小学校に通う「こども記者」の3人、蜂谷拓久さん(12)と樋口未唯那さん(11)、飯嶋榮人さん(11)は、取材した五大堂と雄島についてまとめた新聞「松島シークレット」を作成しました。10月に全国こども記者交流会(河北新報社などで行く実行委員会主催)で、参加者に配布する予定です。

(1面に関連記事)

題字「松島シークレット」は、取材を通じて自分たちが初めて知った秘密をみんなに伝えたい、という思いを表現しました。

表の面は五大堂、裏の面は雄島に決め、それぞれ分担して記事を書きました。取材で印象に残ったことや、瑞巖寺の稲富慶雲さんや新野一浩さんの言葉などをメモしたノートを読み返しながら、仕上げました。見出しは3人でアイデアを出し合い、言葉を考えました。五大堂については「伊達政宗の名前を入れた方が

いい」「発見とか秘密という言葉を使いたい」と意見が出ました。一方で、雄島は「スーパードリフター」と付けたら、見仏上人がすごい人だったと分かる」との意見で一致しました。

最終的に「五大堂 政宗が建立 戦勝に感謝 東北最古の桃山建築」と「雄島 あの世界とこの世をつなぐ 超能力・スーパードリフターの伝説」に決まりました。

3人は、完成した新聞を見て達成感を得た様子。JR仙石線松島海岸駅前で観光客に配ることにしました。



取材したことをまとめ、記事を書くこども記者の3人



3人で協力して作成した新聞「松島シークレット」

取材を終えて

知らないことまだまだ

五大堂と雄島は何回か訪れて知っているつもりでしたが、まだまだ知らないことがありました。残っている謎が解けたら取材したいです。

新聞作りは、考えることが多く難しかったけれど、3人で協力して完成できて良かったです。



蜂谷拓久さん

政宗立った地感慨深く

松島の歴史は、とても面白いと思いました。五大堂の場所で、伊達政宗が同じところに立っていたと思うと、感慨深かったです。見出しを考えるのに時間がかかりました。みんな考えて、まとめられてうれしかったです。



樋口未唯那さん

記者の仕事大変さ実感

五大堂と雄島にはたくさんの歴史が詰まっています。伊達政宗や見仏上人が来たということは、松島はそれだけ魅力的な場所だったんだと思いました。

新聞作りは難しかった。新聞記者は大変な仕事だと分かりました。



飯嶋榮人さん